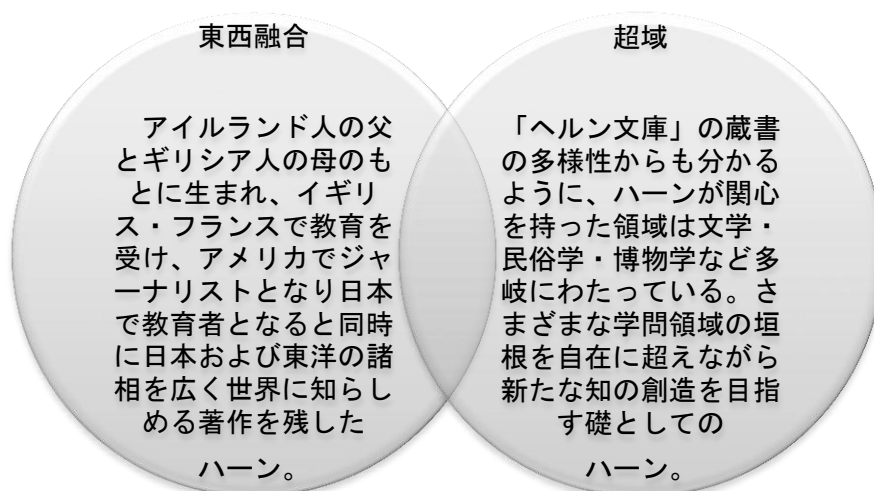


富山大学人文学部ヘルン・プロジェクト活動草案

目的：本学の理念と目標でも言及されているように、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の蔵書 2500 余冊や手稿類および関連書籍を蔵する本学図書館所蔵「ヘルン文庫」は、「知の東西融合」の象徴的な存在であるといえる。この「ヘルン文庫」を学内外に広く紹介し、新たなる知の融合と創造に向けてその可能性を探るため、人文学部有志教員が発起人となって「ヘルン・プロジェクト」を立ち上げることになった。

概念図：



2011 年度活動予定

1. プロジェクトチーム結成

過去の業績や専門に関係なく、可能な限り広くプロジェクトに参加していただける人材をまずは学部内から募りたい。いずれは協力し合ってシンポジウムの開催や共同研究、論集の出版、科学研究費補助金の申請と獲得とその成果発表などを目指すことによって、国内外におけるラフカディオ・ハーン研究の中心のひとつを形成することに寄与して行きたい。

2. プロジェクトに参加していただける研究者を確保するため、また、ラフカディオ・ハーン研究の可能性やヘルン文庫活用の可能性を探るため、「ヘルン研究会」（講演会または報告会）を開催する。学部教職員のほか、他学部教職員・学生・院生等にも聴講を呼び掛ける。第 6 講義室を利用し、聴講料は無料。この活動は学術講演会として 2012 年以降も月 1 回のペースで開催して行く。また、講演（報告）内容は録音の上文書化し、2012 年度末発行を目指す『ラフカディオ・ハーン研究年報』（仮称）に収録する。

ヘルン研究会

第1回 ヘルン研究会は以下の要領で行なわれました。

日時:2012年1月25日(水)16:50~18:20

場所:富山大学人文学部第6講義室

講演者:村井文夫(富山大学人文学部教授)

テーマ:ラフカディオ・ハーン研究とヘルン文庫活用の可能性

ヘルン文庫の概要とラフカディオ・ハーンの生涯のうち、出生からニュー・オールリンズ時代までの知的遍歴について主にお話いただき、研究可能性のあるテーマについてさまざまな示唆をいただきました。降雪にも関わらず学内外から多数のご参加をいただき、講演後の質疑も活発に行なわれました。ご支持・ご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。なお、ハーンの日本時代の知的遍歴については、来年度早い時期に村井先生に再びご講演をお願いする予定です。

なお、今年度内の活動予定は以下の通りです。

第2回 ヘルン研究会 2012年2月29日(水)14:00~15:30 第6講義室

報告者:栗林裕子(本学図書館司書・ヘルン文庫担当)

テーマ:最近のラフカディオ・ハーン関連の各地の活動について

第3回 ヘルン研究会 2012年3月26日(月)14:00~15:30 第6講義室

講演者:小泉凡(鳥根県立大学短期大学部教授・小泉八雲の曾孫)

テーマ:小泉八雲を現代に生かす

お問い合わせは担当中島(toshie@hmt.u-toyama.ac.jp)まで